

教育羅針盤 ◆ 自宅の新聞について

(調査日 7/9 ~ 11 回答率 95.9%)

質問事項 回答者 (人)			① 自宅の購読新聞について知っていますか?			② 新聞を読むことがありますか? ※購読家庭(204名)		
			購読の新聞社名を知っている	購読しているが社名は知らない※	購読していない含む	毎日読むように開く※	よく読むように開く※	たまに読むだけ含む※
学年	在籍	回答						
1年	32	28	5	20	3	9	7	9
2年	40	39	12	23	4	11	9	15
3年	35	33	22	6	5	12	12	4
4年	47	45	35	5	5	6	26	8
5年	42	41	30	5	6	20	15	0
6年	45	45	39	1	5	6	31	3
特支	5	5	0	1	4	0	0	1
全校	246	236	143	61	32	64	100	40
回答数に対する割合 (%)			54.6	28.1	17.3	27.2	49.5	23.3
			※分母 236名			※分母 204名 (143 + 61)		

昨年度より実施された新学習指導要領に「新聞の活用」が盛り込まれ、多くの教科書に新聞記事が登場しています。中学校段階では新聞を読むことと学力には相関が見られると言われます。子どもたちには今からでも新聞に目を向けさせたいものです。ご家庭でも、記事を話題にされるようお勧めします。

尚、このようなことから各市町村教委では新聞各社と協定を結び、教材としての二次使用や新聞社からの講師派遣などを可能にする動きがあります。魚津市も北日本新聞社と協定を結んだそうです。

特活事始め

◆ 学級活動について(2)

学習指導要領では、学級活動の中で取り扱う内容として(1)学級や学校の生活づくり、(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全の2つを示しています。

本校での1学期間の校内研究授業では、概ね「(1)の学級や学校の生活づくり」を中心として展開しました。各担任が取り扱ってきた学級活動(概ね学級会としての話し合い活動)では、学級の児童全員が協力して取り組まなければ解決出来ない議題を意図的に扱いました。

児童の発意、発想を大切にして問題を取り上げ、自発的、自治的な活動を積み重ねることでよりよい人間関係を築く態度を学び、学級での所属感を一層高めています。また、このようなことは、いじめの無い学級づくりとして根本的方策になるものでしょう。

思いやりいっぱい

◆ 地域探検ウォークラリー(7/5)



お年寄りとの交流も…

◆ 校内研究授業(7/6)

※3年学級会



積極的な話し合い…

学びいっぱい

◆ 水泳教室(7/3・4)

※1~4年生



横田一郎さんの指導で

元気いっぱい

◆ リズムダンス練習(7/2)

※1~4年生



岡崎明子さんの指導で

悲惨ないじめの問題が再び世間を騒がせている。「いじめはいけません」と100万回言ったところでいじめは無くならないのではないかと、言葉で教えるだけでは伝わらないのが実際のところ…。情緒的体験をベースにした形での指導に努めようと校内で呼びかけている。情緒をベースにとは、例えば思いやりの行動として、電車等でお年寄りに席を譲るのは「ルール」だからか?あるいは「お年寄りは辛いだろうなあ」という気持ちからか?「ルールとしての行動か?気持ちとしての行動か?」子ども自身に気づかせていくことが大切であるということである。いじめ問題の場合も、いじめられた側の子どもに十分共感させることが特に大切と思う。本校は「特活」の研究を生かして、子どもたちによりよい人間関係を作る素地が整っている。いじめ問題は起き難いと思うが、万全の用心で注意していきたい。(土)